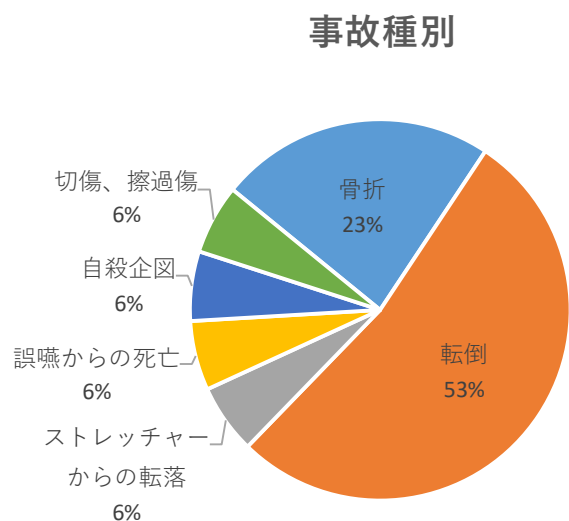


## 令和3年度 介護保険事業所における事故報告結果

### ①サービス種別と事故報告件数

サービス種別	件数
通所介護	1
短期入所生活介護	1
認知症対応型共同生活介護	10
介護老人福祉施設	3
介護老人保健施設	1
有料老人ホーム	1
合計	17

### ②最も多い事故は、利用者による「転倒事故」



※事故報告は、すべての事業所から、「第1報」が電話又はFAXで、介護課へ速やかに行われています。

家族への連絡、ケアマネへの連絡、適切な事故対応がされており、家族とのトラブルがあったという報告はなかったです。

※スタッフがほんの少し目を離した瞬間に利用者が転倒する事故が53%でした。高齢になると、転倒時の重症化のリスクが高くなり、骨折や、最悪の場合、寝たきりになったり、車椅子での生活を余技なくされる事態となる恐れがあります。

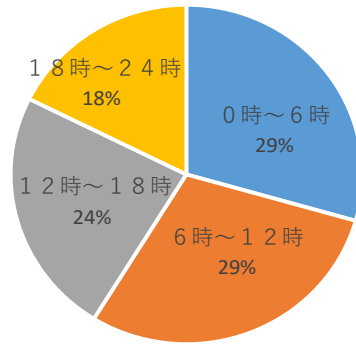
転倒事故はこのように、生活の質の大きな低下につながる可能性が大きい為、リスクを最大限に回避する事が求められます。誤嚥からの死亡事故、自殺企図の事故もありましたが、家族とトラブルはなく、施設内で再発防止策として、利用者の訴えを親身に受けとめる、主治医への状況報告、適切な服薬、適切な受診、治療、見守りの強化をあげています。

又、損害賠償があった事故は6件でした。

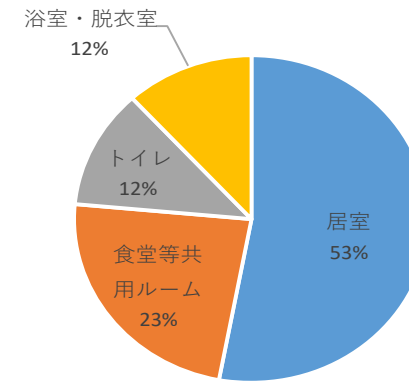
《特に注意が必要な場所》

- ・段差がある場所
- ・片付いていない場所
- ・暗い場所
- ・濡れている場所

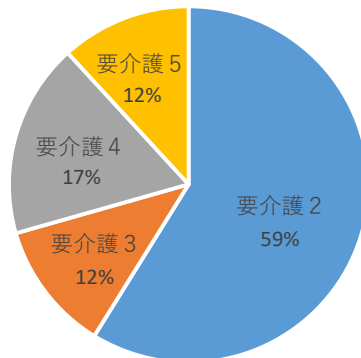
### 発生時間



### 発生場所



### 要介護度



※日々の介護業務において、以下の点について意識しましょう。

#### ・管理体制・連携体制の見直し・強化

見守り中や他の利用者へ介助中、目を離した際に転倒するケースが多く管理体制や連携体制の見直し・強化が必須となるでしょう。

#### ・利用者から日常生活のヒアリング

施設での生活で、危険だと感じる場面がないかヒアリングを実施し、ヒアリング内容は職員全体で情報共有し、改善できる事であればすぐに改善していきましょう。

#### ・福祉用具、設備などの安全性を確認

定期的に施設内の備品や福祉用具は安全に使用できるかチェックし、事故につながる危険性の高い設備や用具は交換する等の対応をしましょう。

#### ・介助方法の改善、転倒予防の徹底

介助中に起こりうる転倒事故を想定し、シュミレーションする機会を設けるなど、職員全体に転倒の危険性と対応マニュアルを周知し、誰もが安全な方法で介助できるように徹底しましょう。